

2021 年度

神奈川県高体連バドミントン専門部  
審判関係 資料

- ① 大会時の審判関係の内規集…………… 1～4
- ② 試合中の怪我・事故などに関する取り扱いについて…………… 5
- ③ 背面の学校名・県名の表示について…………… 6～8
- ④ コーチングシートについて…………… 9～10
- ⑤ オーダー用紙の記入方法について…………… 11～12
- ⑥ 団体戦におけるチームの成立について…………… 13

# ◆ 県高体連主催大会における審判（競技）関係の内規集 ◆

令和3年3月審判委員会・各地区マネージャー会議

## 1. 服装について

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関東高校大会 【第2種大会】 県内（各地区予選・県大会）：4月 本大会：6月</li> <li>・ 全国高校総体 【第1種大会】 県内（各地区予選・県大会）：5～6月 本大会：8月</li> <li>・ 新人大会（高校選抜予選） 【第1種大会】 県内（各地区予選・県大会）：9～11月 関東・全国大会：12～3月</li> </ul>				
上 衣 (シャツ)		下 衣 (短パン・ハーフパンツ スカート等)		靴 下
色つき	ゼッケン	色つき	・裸足は不可	
(公財)日本バドミントン協会審査合格品のみ可 *愛媛総体支援Tシャツは例外として認める	必 要 (上：学校名) (下：県名)	(公財)日本バドミントン協会 審査合格品のみ可		

★上・下真っ白の場合は、審査合格品でなくてもかまいません。

なお、ワンポイントがある程度も真っ白と見なします。

シャツの襟や袖あるいは短パン等のサイドに色が入ってしまうと真っ白と見なせなくなります。

県内ではワンポイントがある程度の真っ白のTシャツでも試合に出場することは可能です。

(襟や袖の色が白でない場合などは、出場できなくなります。)

★色付き着衣について審査合格品かどうかはメーカーのカタログに載っています。

★地区高体連主催の試合については、各地区で規程を定めて行ってください。

★上記の服装違反について、度重なる場合はその選手を失格させる場合もあります。

★背面に表示する学校名・県名の文字の大きさには規定があります。

文字は、幅30cm以内に文字列1行の高さが6～10cmになるようにしてください。

なお、1行目(上)に学校名、2行目(下)に県名(神奈川)とする。

学校名の方が、県名よりも大きくなるように表示してください。

背面表示に関しては、移行期間が過ぎ厳格化されますので、ご注意ください。

(6～8ページ「背面の学校名・県名表示について」を参考にしてください。)

★背面ゼッケンをつける場合は、四隅をしっかりとめて、めくれないようにして下さい。

特にゼッケンの下に中学校名やメーカー名など絶対に見えてはいけません。

(ゼッケンは、白地の布に黒あるいは紺色で文字を使用して作るようにしてください。)

★背面に学校名・県名をプリントする場合は遠くから見ても明瞭に分かる色で配色してください。

(たとえば、黄色地に白抜き・赤地に黒字・ピンク地にグレー・青地に黒字などの組合せは不明瞭と判断します。汗をかいてシャツの色が変わっても明瞭にわかるようにしてください。)

不明瞭とレフェリーが判断する場合はゼッケンをつけ直させることもあります。

★インナーウェアについては、県内では原則として審査合格品とします。

## 2. 応援について

### 『応援は、拍手を中心とした節度あるものとする』

ただし、① 試合進行上支障があると審判が判断した場合は、その指示に従う。

② インプレー（ラリー）中は、一切応援しない。

③ 試合中の選手へのアドバイスは、コーチ席からのものを除き、インターバル中以外は、禁止とする。

※ 競技規則第16条第5項、公認審判員規程第3条第12項による

- \* 競技中の選手が、大きな声を出すことは、フォルトあるいは警告の対象となります。
  - ① インプレー中であれば、当該選手（サイド）のフォルトとなります。
  - ② インプレー中以外であれば、当該選手（サイド）への警告（イエローカード）となります。
- \* コートの周囲2mは、競技区域内となっているので、競技者・審判員以外は、入ることができません。
- \* 現行の（公財）日本バドミントン協会の競技規則・大会運営規程・公認審判員規程にあるコーチング・シートについては、神奈川県高体連バドミントン専門部としては、個人戦において会場にスペースのある場合は、原則として採用することとしている。（9～10ページ「コーチングシート（コーチ席）について」を参考にしてください。）

### ☆ 応援に関する細則

- ① 試合の遅延防止および選手の集中力に関する配慮のため、1ラリー終了ごとの応援は拍手を中心とする。そして、その応援は、インプレーにかからないようにし、サービスの開始時には、確実に応援をやめること。（サーバー・レシーバーが構えたら、応援しない。）
  - \* 応援は自チームの良いプレーを讃えたり、自チームを励ますもので、その内容が相手サイドを誹謗・中傷するようなものにはならないこととする。例えば、相手のミスに対して「ラッキー」を連呼したりすることは応援のマナーに反するものであると考える。
- ② 拍手以外の行為、たとえば「スティック・バルーン」「うちわ」「太鼓」「笛」などを使っての応援や、イスをたたく・床を踏みならすなどの行為は、禁止とする。
- ③ 振り付けのある、踊るような応援やシャトルが決まったところ（落下地点）を指すなど、身振り手振りでの応援については、高校生としては過度の応援・不品行な応援マナーと判断し、禁止とする。
- ④ 「ゲーム中の60秒やゲーム間の120秒を超えないインターバル中」と試合前の「2分間の公式練習」の時の応援は、禁止とする。
- ⑤ 「本部席」およびその周辺（ステージ上など）にいる顧問の先生方や運営の手伝いの生徒たちは、拍手を含めて、一切応援できない。これはあくまで本部席（運営サイド）は、ニュートラル（中立）の立場でなければならないからである。
- ⑥ 試合前のパフォーマンス（エールなど）については、特に禁止としないが、かけ声程度の短い時間で済ませて、試合進行に影響がないようにすること。ただし、床を強く踏みつけて大きな音を出すなどの行為は、他のコートへの影響もあるので好ましくないと判断する。
- ⑦ （公財）日本バドミントン協会より「応援などに関するガイドライン」が出されている場合には、そのガイドラインに従うものとする。

## 3. 試合開始時に選手が注意しなければならないこと

- ① 滑り止めの雑巾を置く場合は、会場ルールを優先しますので、置けない場合（雑巾禁止）やビニールの上に置く場合なども考えられます。
- ② 当該試合の選手のラケットの替えやスポーツタオルなどは主審の側に置いてください。当内規により、選手は試合中には120秒のインターバルを除き、ベンチに戻れないことに注意して下さい。
- ③ 携帯電話については、電源をOFFにするか、マナー（サイレント）モードにしておくこと。（携帯電話が鳴った場合には、競技規則第16条7項が適用される。）

#### 4. 試合前のシャトルを打っての練習について

学校対抗における試合前のシャトルを打っての練習については、各対戦（マッチ）ごとにその対戦前2分間とします。シングルスでは、練習相手は、各チーム内より出してください。個人戦のシングルスについては、対戦相手同士の練習（ヒッティング・アップ）とします。個人戦のダブルスについては、各ペア同士の練習（ヒッティング・アップ）とします。

\*練習用シャトルについては、試合を行う学校より出してください。試合球は使えません。

※この練習は、服装の確認のためにも試合がすぐにできる服装で行うようにしてください。

#### 5. 試合中の怪我について

試合中に選手の怪我が発生した時は、監督（顧問）・コーチ・マネージャー・チームメイトなどが主審の許可なく、コート内に入ることは許されていません。基本的には、主審あるいはレフェリーの判断で許されるわけです。そして、選手の怪我の治療の途中でもアドバイスはできません。また、怪我が発生した場合の処置時間ははっきりと決められてはいませんので、治り次第（再開できる状態ならば）、主審（レフェリー）の判断でゲームを再開することになります。

（5 ページ「試合中の怪我・事故の取り扱いについて」を参考にしてください。）

#### 6. 試合中の選手のドリンクについて

選手の試合中のドリンクについては、会場ルールを最優先しますが、健康上やむをえず水分補給する場合には主審（レフェリー）の許可を得なければならないことになっています。

ただし、インターバル時の水分の補給は許されていますので主審の許可は不要です。

（なお、インターバル時もドリンクに関するその会場のルールが優先します。）

ドリンクの容器はペットボトル(500mlまで)などのふたのできる容器(こぼれないもの)とします。

#### 7. インターバル時について

①ゲーム中の60秒のインターバル時は、チェンジエンズはせずアドバイスはその場で受ける。

ただし、ファイナルゲーム時の60秒のインターバルでは、まずチェンジエンズを行い、その後アドバイスを受けることができます。 \* アドバイスは、主審の側で行う。

②第1, 2及び第3ゲーム間の120秒のインターバル時は、主審の許可なくコートを離れてもよい。

③主審の「20秒」のコールで、速やかにコートに入ってください。

#### 8. サービス時のシャトルの位置について(115cmについて)

競技規則第9条第1項(6)については、現在のところ判定装置が準備できないため、ポストにテープを貼り、そこからイメージできる仮想のラインで判断する。なお、スペースがある場合には、サービスジャッジを置くが、スペースがない場合は主審が判定する。

#### 9. 学校対抗（団体戦）のメンバー変更について

学校対抗のメンバー変更については、試合当日の朝（その日の第1試合開始前）の所定の時刻に所定の用紙に記入し提出してください。

なお、捺印欄には顧問が、押印するかレフェリーの目前でのサインをしてください。

県高体連の試合（関東大会県予選、県高校総体、県高校新人大会）では、団体戦でチームを成立させるためには、最低5人のメンバーが必要です。

メンバー変更後でも合計5人以上のメンバー（選手）が必要です。

（詳細は、13ページを参考にしてください。）

## 10. 学校対抗における監督・コーチについて

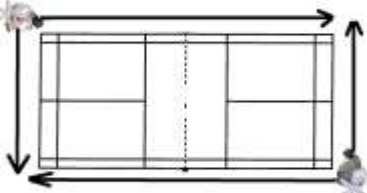
- ・監督・コーチのいずれかは、引率責任者となる者とし、申込用紙の監督・コーチ欄に記載のある者とします。生徒は、必ず引率責任者によって引率されるようにしてください。  
顧問の先生以外が引率責任者になるためには一定の条件があります。
- ・学校対抗戦において、ベンチに入れるのはオーダー用紙に書かれた監督・コーチ各1名ずつのみとします。なお、オーダー用紙の監督欄は監督の署名とします。また、コーチが引率責任者の場合には、コーチ・監督欄ともにそれぞれコーチ・監督の署名とします。コーチを監督が兼ねていることはかまいませんが、その場合にはオーダー用紙のコーチの欄は、空欄としてください。
- ・引率責任者でない方でコーチ(監督)になれるのは、学校長の認めた者で申込用紙のコーチ(監督)欄に記載されている者とします。
- ・大会運営規程第36条(10ページ参照)により、団体戦において、主審に質問ができるのは、選手本人と監督のみになります。個人戦においては、質問できるのは選手本人のみです。

## 11. 審判について

関東大会予選・全国高校大会予選・新人大会の審判の考え方は次のとおりです。

	主審・サービスジャッジ		線審		得点表示	備考
	初回時	2巡目以降	初回時	2巡目以降		
各地区予選	【個人戦】 シート校で 【学校対抗戦】 シート校で	【個人戦】 敗者校で 【学校対抗戦】 敗者校で	【個人戦】 対戦校から 【学校対抗戦】 対戦校から	【個人戦】 敗者校で 【学校対抗戦】 敗者校で	【個人戦・ 学校対抗戦】 初回は対戦校からで 2巡目以降敗者	レフェリー 判断で 審判配置
県大会	【個人戦】 シート校で 【学校対抗戦】 シート校・試合時 間の遅い学校で	【個人戦】 敗者校で 【学校対抗戦】 敗者校で	【個人戦】 対戦校から 【学校対抗戦】 対戦校から	【個人戦】 敗者校で 【学校対抗戦】 敗者校で	【個人戦・ 学校対抗戦】 初回は対戦校からで 2巡目以降敗者	学校対抗戦の 初回時の審判 校の顧問に 昼食を支給
県団体 ベスト8 以上	【学校対抗戦】 原則として各地区・県協会から の派遣審判		【学校対抗戦】 対戦校から	【学校対抗戦】 敗者校で	【学校対抗戦】 対戦校または 敗者の学校より	派遣審判員に は、手当と 交通費を支給

### 注意

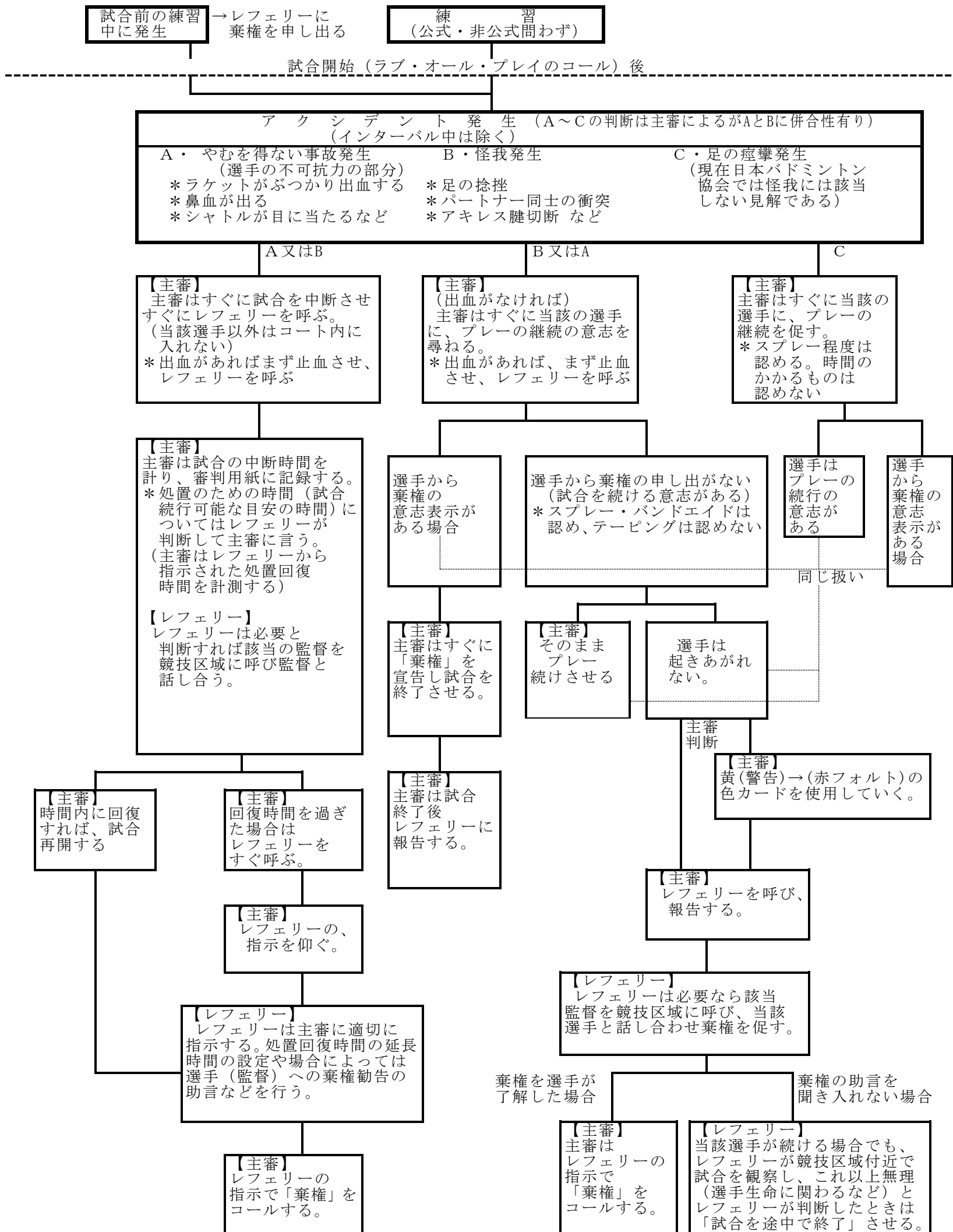
- 主審は次の項目に該当のある方
  - ① 各学校の顧問・コーチ(または顧問代理の方)
  - ② 各地区のルール講習会(または公認審判講習検定会(準3級以上))を受講した高校生
  - ③ 特別にレフェリーが認めた方
- 線審は次の項目に該当のある方(得点表示員はだれでも良い)
  - ① 各学校の団体戦出場登録者。
  - ② 各地区のルール講習会(または公認審判講習検定会(準3級以上))を受講した高校生
  - ③ 特別にレフェリーが認めた方
- 線審が2名の場合の線審の担当ラインは、原則として以下の図の「→」の通りとする。  
線審は、対角線に位置することになる。  
線審は、図の → にあるように、自分のいる側エンドライン・サイドラインラインの2つの方向を担当することになる。  
主審のいる側のサイドラインも線審の担当となる。  
サイドラインについてはネットを挟んだ反対側のエンドラインまでが担当となる。
 
- 線審については、4名線審が好ましい。配置については、競技規則上は一本ラインとなっているが、会場の状況に応じて変更できることとする。

# 【試合中の怪我・事故などの取り扱いについて】

令和3年3月  
神奈川県高体連バドミントン専門部  
審判委員会

◎神奈川県高校体育連盟主催の大会において、試合中に事故や怪我が発生した場合は原則として次の手順で処置を行うものとします。なお、その他の処置の判断を必要とする場合は、(公財)日本バドミントン協会の競技規則・大会運営規程により、大会のレフェリーが判断(決定)する事になります。

## 【試合中の選手によるアクシデントの対処について】



**注意事項** \*レフェリーについては、ディピュティ・レフェリーが代わりに務めることができる。  
\*各大会の怪我については必ず安全対策委員(國島嘉子・県立旭高校)に Fax・電話にて報告して下さい。(FAX 045-951-3117 電話045-953-3301)

## 背面の学校名・県名表示について

大会運営規程「第4章 第24条(1)」に従い、背面の学校名・県名の文字の大きさの規程があります。2020年度よりこの規程が厳格化されています。背面入りの上衣を作成する場合やゼッケンを作成する場合には、この規程に従った大きさで作成するようお願いします。

大会運営規程 第4章 (一部)

第24条 プレーヤーまたはコーチの着衣上の背面、広告、ロゴなどの表示に関する取り決めについては、以下の通りとする。

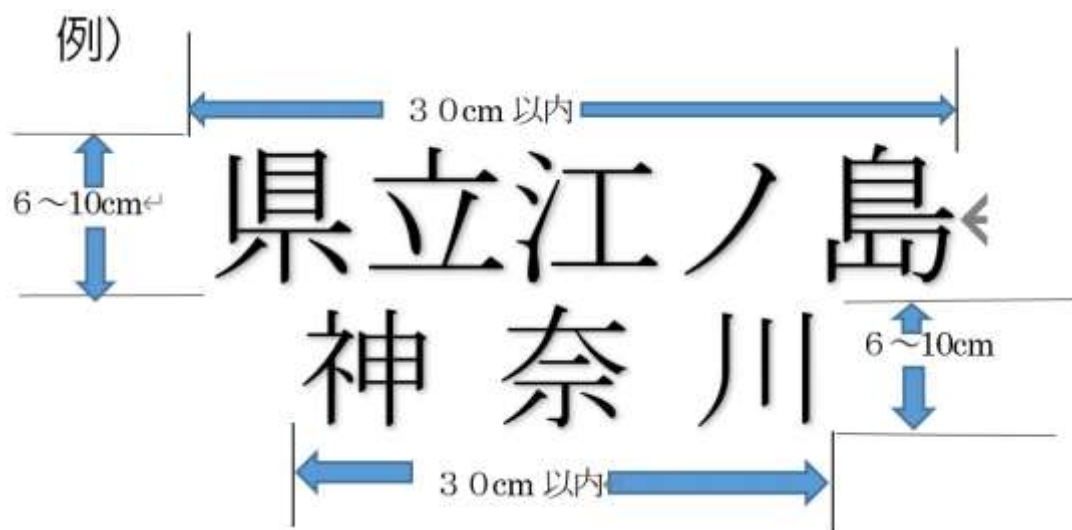
(1)ウエア(上衣)の背面には、単一色で3行までの文字列の表示と背番号の表示を認める。

なお、3行の文字列と背番号の色は単一色ですべて同色とする。

①文字列の大きさは、高さ6cm～10cm、横30cm以内とし、各行には、プレーヤー名、チーム名、スポンサー名、都道府県名等を水平表示するものとする。

ただし、プレーヤー名とチーム名など、異なる項目を同一行に表示することはできない。

また、文字列にはロゴを含まないものとする



高体連バドミントン専門部では、学校名と都道府県名以外は表示できません。

学校名の表記方法について、特別なルールはありません。

(他校と区別がつくようにしてください。)

なお、アルファベットを使用することはできません。

背面(ゼッケン)は、上に学校名、下に県名(神奈川県)を明記してください。

また、学校名が県名よりも大きくなるような表記をお願いします。

ゼッケンを使用する場合、手書きではなく印刷されたものにしてください。

★背面ゼッケン(プリントする場合)は遠くから見ても明瞭に分かる色で配色してください。

(たとえば、黄色地に白抜き・赤地に黒字・ピンク地にグレー・青地に黒字などの組合せは不明瞭と判断します。汗をかいてシャツの色が変わっても明瞭にわかるようにしてください。)

\*7, 8ページの全国高体連からの通達文も参考にしてください。

各都道府県高体連バドミントン専門委員長様

公益財団法人全国高等学校体育連盟バドミントン専門部  
部長 田部井 秀郎

## ウェアに関する表示規定の遵守について（通知）

日頃より、当専門部の活動にご理解とご協力をいただき深く感謝申し上げます。

さて、2020 年のルール改正からウェアの背面表示の文字列の大きさは高さ 6 cm～10 cm、と具体的な数値が盛り込まれました。今まで全国高校総体と全国選抜大会（以下、高体連主催大会。）では背面文字列の大きさについては、高体連独自の移行措置として既に購入してしまったウェアについては、やむを得ず許容してきましたが、令和 2 年度から両大会とも規定に合わないウェアの着用は認めない事で大会を運営いたします。

これは、高体連主催大会では使用できた、条件を満たしていないウェアが、全日本ジュニア大会、全日本総合大会、ジュニアグランプリ大会では着用が認められず、ゼッケン使用や違反する文字列を布で隠す処置がなされるなど、出場選手に不都合が生じているからです。

今回このような、高体連主催大会とその他の日本協会主催大会との競技規則運用上の差異による選手への不都合を解消するため、令和 2 年 3 月 31 日をもって、高体連独自の移行措置を終了し、下記の通りウェアの背面や前面の表示に関して、来年度から競技規則通りに完全実施する旨を、各都道府県内の所属校へ周知をお願いいたします。

なお、高体連主催大会の都道府県予選までは、各々の事情に合わせ、期限を定めて、猶予期間を設けることはこの限りではありません。

### 記

令和 2 年 4 月 1 日より、全国高校総体・全国高等学校選抜大会で着用するウェア表示に関する規定については競技規則書通りとする。

ただし、ウェア表示に関する全国高体連バドミントン専門部申し合わせ事項については今まで通りとする。（スポンサー表示禁止、ロゴに校章は認める点）

以上

参考までに競技規則の抜粋をお示しします。（平成 31 年 4 月改定箇所も含む）

公益財団法人日本バドミントン協会競技規則（大会運営規程第 4 章第 24 条）

着衣上の背面、広告、ロゴなどの表示に関する取り決めについては、以下のとおりとする。

(1)ウェア（上衣）の背面には、単一色で 3 行までの文字列の表示と背番号の表示を認める。

なお、3 行の文字列と背番号の色は単一色ですべて同色とする

①文字列各行の大きさは、高さ 6 cm～10 cm、横 30 cm 以内とし、各行には、プレーヤー名、チーム名、スポンサー名、都道府県名等を水平表示するものとする。ただしプレーヤー名とチーム名など、異なる項目を同一行に表示することはできない。また、文字列にロゴを含まないものとする。



- ②プレーヤー名、チーム名の表示が高さ6cm～10cm、横30cm 以内の範囲に一行で表示できない場合は複数行になっても構わない。ただし、その場合でも表示された複数行の文字列の高さの合計は6cm～10cm とする。
- ③背番号を表示する場合は、文字列の下中央部に表示するものとし、大きさは縦15cm 以内、一桁横7cm 以内とし、二桁以内とする。
- ④文字列、背番号は明瞭な文字、数字を使用し、文字、数字の色は上衣背面の文字列、背番号表示部分の色と明確に区別できる色とする。
- (2)ウェア（上衣）の前面には、複数行の文字列の表示と、前番号の表示を認める。
- ①複数行の文字列は、高さ6cm～10cm、横40cm の範囲内に納まるものとし、チーム名、スポンサー名、広告のいずれかを表示することができる。（文字列にはチーム名、スポンサー名、広告に連動したロゴを含めてもよい）
- ②文字列は装飾文字を使用してもよく、単一色と限定しない。
- ③前番号はウェア（上衣）の前面の胸下に背番号と同一番号をつけるものとする。大きさは高さ8cm 以内、一桁4cm 以内とし、二桁以内とする。
- (3)ウェア(上衣)には、右襟、左襟、右袖、左袖（袖のない場合は、右肩前面、左肩前面）、ウェア前面の5ヶ所に3つまで、スポンサーロゴ、チーム名、プレーヤー名を表示することができる。ただし、1ヶ所に表示できるものは1つまでとする。
- ①1つのロゴの大きさは20cm<sup>2</sup>以内とする。
- ②上記3つの内の1つは50cm<sup>2</sup>以内でも可とする。（メーカーロゴを除く）
- ③メーカーロゴはその数に入れない。
- (4)ショートパンツ、スカート、ワンピースの前面底部に2つまでのスポンサーロゴ、チーム名、プレーヤー名、背番号と同一番号を表示することができる。
- ①1つのロゴの大きさは20cm<sup>2</sup>以内とする。
- ②メーカーのロゴはその数に入れない。
- (5)各ソックス（対の一つ）には、2つまでの広告（メーカーのロゴやマークを含む）を表示することができる。大きさは20cm<sup>2</sup>以内とする。プレーヤーが正規のソックスは勿論、圧縮/サポートソックスを着用する場合も各脚/足には合計2つまで広告を表示することができる。（サポーターなどの医療用具のメーカーロゴはその数に入れない）
- (6)アンダーウェア（上衣）、リストバンド、バンダナ、サポーターなどの医療用具に1つまでのスポンサーロゴ、チーム名、プレーヤー名、背番号と同じ番号を表示することができる。
- ①1つのロゴの大きさは20cm<sup>2</sup>以内とする。
- ②メーカーのロゴはその数に入れない。
- (7)本会または、8連盟および各都道府県協会主催の大会については、上記(1)～(6)の規程内で各大会独自の表示規定を定めることができる。
- (8)プレーヤーは、違法な、中傷的な、本来商業的な、あるいは独断的で政治的または宗教的な意図のある、入れ墨や、ペイント、写し絵、その他それに類似したやり方のものを表に出してはならない。（これは着衣にではない）
- (9)たばこの会社や製品に関する広告は禁止とする。

# コーチングシート(コーチ席)について

令和3年4月1日・審判委員会

神奈川県高体連バドミントン専門部ではコーチングシートを置くスペースが確保でき、試合進行上の支障がない場合は、個人戦においては原則として(公財)日本バドミントン協会競技規則・大会運営規程で定められているコーチングシート(2脚)を設置することとしました。

## 【コーチングシートの基本的な使用方法】

- ①当該校の顧問・コーチ・生徒など当該校関係者が2名まで座ることができる。  
ただし、他校の生徒、嘱託コーチでない保護者・卒業生は、座ることができない。
- ②シャトルがインプレーでないときに限り、プレーヤーにアドバイスをすることができる。  
ただし、試合進行に支障のないようにする。また、大声でのアドバイスはできない。  
応援席ではないので、応援はできない。「イン・アウト」の声も発してはいけない。  
他のコートの試合に影響のあることをしてはいけない。  
拍手は、応援とみなします。
- ③ゲームごとに選手と同じように、チェンジエンスを行う。
- ④選手と同じように観客に不快を与えない服装(10ページ参照)で臨み、  
体育館用シューズを着用する。  
ただし、当該大会に出場している生徒に限り、短パンでの着席は認められる。
- ⑤原則的に主審側のバックバウンダリーライン(エンドライン)の後方に配置される。
- ⑥学校事情により、空席にしてもよい。

## 【違反者の扱いについて】

コーチングシートでの上記の違反者は、レフェリーにより、

- ①コーチングシートからの退席 ⇒⇒ ②会場からの退場 ⇒⇒ ③選手の失格 があります。

## 【その他】

地区予選や地区大会については、各地区で検討してください。

# コーチング・シートに関するルール

(「日本バドミントン協会競技規則(諸規程集)」より)

## 競技規則

第16条 プレーの継続、不品行な振る舞い、罰則

第5項 アドバイスとコートから離れることに関して

- (1) シャトルがインプレーでない(第15条参照)ときに限り、プレーヤーはマッチ(試合)中、アドバイスを受けることができる。
- (2) プレーヤーは、本条2項のインターバルを除き、マッチ(試合)中、主審の許可なしにコートから離れてはならない。

## 大会運営規程

第25条 競技規則第16条第5項(1)の、インプレーでないときのコーチによるアドバイスに関する規定の施行については、主催者側とレフェリー(競技役員長)により協議し取り決めることができる。(インターバルを除く)

## 公認審判員規程 (一部、注釈・補足追加)

第3条 主審への助言

第12項 コートの外からのアドバイス

- (1) シャトルがインプレーのとき、または両サイドのプレーヤーのプレーか次のサービスの体制が整ってからは、コート外からのいかなるアドバイスも許されない。
- (2) コーチは、許可されたインターバル(競技規則第16条第2項参照)の間を除き、指定された席に着席するものとし、マッチ(試合)中、コートのそばに立ってはいけぬ。
- (3) コーチはレフェリー(競技役員長)の許可なく、指定された場所から椅子を動かす、移動することは許されない。また主審はコーチが椅子を移動することにより、線審の判定に影響が出たり、また広告ボードが(観客等から)見えにくくならないように特に留意する。
- (4) コーチがプレーヤーの注意をそらしたり、プレーを混乱させるようなことがあってはならない。
- (5) コートサイドで、コーチはマッチ(試合)中、相手側のプレーヤー、コーチ、チーム役員、または担当の審判員とどのような方法で連絡(情報交換)を取り合ってははいけぬ。
- (6) コートサイドでコーチはマッチ(試合)中、いかなる目的でも携帯電話、パソコンなどの電子機を使用してはならない
- (7) もし主審が、コーチにより、プレーが混乱させられており、相手サイドのプレーヤーの注意がそらされている判断した場合は、「レット」をコールする。(競技規則第14条第2項(5))。そして、そのようなことが再び起こったならば、すぐレフェリー(競技役員長)を呼ぶ。
- (8) コーチは、マッチ(試合)にふさわしい服装で臨む事。  
例えば、チームユニフォーム(※)・シャツ(\*)・ポロシャツ・ブラウス、長ズボン(◎)  
またはスカートとし、ジーンズやビーチスタイル、バミューダ、ショーツ、スリッパとサンダルは禁止する。尚その適否判断は大会レフェリー(競技役員長)に委ねるものとする。  
※チームユニフォームとは、チームでそろえたジャージなどのことを意味します。  
\*シャツとは、襟付きシャツでTシャツは含まれません。  
◎七分丈のものは、長ズボンとみなします。
- (9) この第12項でいうコーチとは、コーチ、監督、その他大会参加者(チームのその他の選手)など、マッチ(試合)中に、コート競技区域内にあるコーチ席に座る可能性のある者を指す。

## 大会運営規程

第36条 審判員の判定に対して疑問の有る場合は当該プレーヤーが、団体戦の場合は当該プレーヤーと監督に限り質問することが認められる。ただし、抗議あるいは異議であってはならない。

## オーダー用紙の記入・提出について

- ◎ オーダー用紙の記入ミスは失格となることがあります。  
よくわからない時は事前に顧問または大会本部に問い合わせてください。
  - ◎ ①(学校控) ②(本部保存) ③(対戦校控) の順に重ね(3枚複写)、  
下敷き紙(厚紙)を使用し、黒のペン(ボールペンなど)で記入してください。  
3枚目(対戦校控)まで転写されていることを確認してから提出してください。
  - ◎ 対戦校が決まっている場合は、指定されたオーダー用紙提出時間までに  
「②(本部保存)」と「③(対戦校控)」の2枚(2枚を重ね縦折り)を封筒に入れ、  
封筒の表に自校の学校名と男子または女子を記入して提出してください。  
その後は対戦校が決まり次第速やかに提出してください。
1. 大会名は、**関東・総体・新人**の該当項目の○をつける。  
[夏季大会・冬季大会などは( )内に記入する]
  2. **地区予選・県大会**の該当項目に○をつける。  
[夏季大会・冬季大会など地区のみ大会の場合はなにもしない]
  3. 日時は、試合当日の年月日を、記入する。
  4. 会場は、**〇〇高校**、もしくは、**公共の施設名**(体育館名)を記入する。
  5. 種別は、**男 女** いずれかに○をつける。
  6. 試合番号は、トーナメントの試合番号を記入する。  
ブロックがある場合は、ブロック名 - (ハイフン) 試合番号を記入する。
  7. 対戦方法は、**関東大会**は、① **2D1S**に、  
**総体・新人大会**は、② **2D3S**に○をつける。
  8. 自チーム名は、**自校地区名**、**自校名**を記入する。  
対戦チーム名は、**対戦校地区名**、**対戦校名**を記入する。  
特に対戦校地区名を間違えないように記入する。
  9. 選手氏名は、**フルネーム** を記入する。学年は、**算用数字** で記入する。  
特に選手氏名は、参加申込書と一致していない場合は失格となることもある。  
漢字の間違いなどにも注意する。
  10. **監督署名(自筆)**のないものは無効となる。(必ず監督自身が内容を確認後署名する)  
マネージャー名、コーチ名は、参加申込書に記載した氏名を記入する。  
マネージャー名、コーチ名は、いない場合は、記入しなくともよい。
- ※ **2D1S**方式では、**D1**(第1複) ⇒ **S**(単) ⇒ **D2**(第2複) の順に試合を行い、  
**2試合先勝**したチームを勝ちとする。  
選手の重複出場はできない。通常、勝敗決定後に残りの試合は行わない。
- \* **2D3S**方式は、**D1**(第1複) ⇒ **D2**(第2複) ⇒ **S1**(第1単) ⇒ **S2**(第2単) ⇒ **S3**(第3単)の  
順に試合を行い、**3試合先勝**したチームを勝ちとする。  
2D3S方式は、D1、D2の選手がS2またはS3に重複出場はできるが、  
S1の選手は他の試合に重複出場はできない。  
勝敗決定後に残りの試合は原則として行わない。
- ☆ **ケガ等**で選手が**5名未満**の場合は試合は**不成立**。そのチームは**レフェリーの判断**により  
**不戦敗**となります。 **地区大会**の**合同チーム**については、別に定めます。

【 12ページにある「記入方法(例)」も参考にしてください。 】

# 記入方法（例）

<b>オーダー用紙</b> (学校控)				(対戦校控)		
大会名 関東・総体・新人( )				〇月〇〇日		
地区予選 県大会		日時 〇〇年〇月〇〇日		〇月〇〇日		
会場 〇〇高校 体育館		種別 男 女		女		
試合番号 〇〇		対戦方法 ①2D1S ②2D3S		D3S		
自チーム名 〇〇〇 地区 〇〇〇〇 高校				D3S		
対戦チーム名 〇〇〇 地区 〇〇〇〇 高校				高校		
①2D1S方式			②2D3S方式			
氏名		学年		氏名		
D1		D1	〇〇〇〇		△	
			〇〇〇〇		△	
S		D2	〇〇〇〇		△	
			〇〇〇〇	フルネーム	△	
D2		S1	〇〇〇〇	で記入	▲	
			S2	〇〇〇〇		△
				S3	〇〇〇〇	
マネージャー名 〇〇〇〇		フルネームで記入				
コーチ名 〇〇〇〇		フルネームで記入				
監督署名 〇〇〇〇		フルネームで記入				
神奈川県高等学校体育連盟バドミントン専門部①						

オーダー用紙は、複写式です。ついている厚紙を③の後ろにしっかりとはさんで、黒の油性ボールペンで記入してください。うまく厚紙をはさまないとずれることもあります。ジェルインクなどの筆圧のあまりいらないペンで書くとうまく複写できていないこともあります。③のところまできちんと複写されていることを確認してから提出するようにしてください。

必ず、監督が署名してください！

※ 監督署名後は、監督がオーダーにすべての責任を持つことになります。

## 団体戦のチームの成立について

団体戦のチームが成立するかどうかについては、大会運営規程第4章第20条に以下のように定められています。

### 大会運営規程

#### 第4章 競技者及び試合

第20条 団体戦においては、大会開始後、プレーヤーの責任でない状況（けが、病気、弔事など）が発生した場合は、残りの登録プレーヤーでマッチ（試合）が可能な場合はこれを認める。なお、その該当プレーヤーが、その後回復し試合続行可能な場合はこれを認めるものとする。ただし、これらのすべての事項に関しそれが公正なものであるかは、その大会のレフェリー（競技役員長）が医療役員またはその他の医療関係者などの助言に基づき判断するものとする。

※ 次の試合に備えて体力温存の為、故意に棄権するなどの行為は許されない。

上記の規程からも、試合開始時から「棄権することを前提」としたメンバーの登録は考えられなくて、またメンバー変更においても棄権を前提としたメンバーを入れることは考えられない。バドミントンは、マナーを重視している競技でもあるため、対戦相手のことも考えて、メンバー登録・変更を行うようにしてください。規程にある「マッチが可能な場合」ということを考えると「棄権を前提」とした選手の登録・変更はできないことになるかと考えられます。

ただ、1回戦開始時にいない選手がいても残りのメンバーで試合を行うことができる場合に、勝ち進んで、その選手が戻ってきて出場することは可能です。また、1回戦でケガをして棄権した選手が、治療をして戻ってきて、2回戦以降の試合に出場することも可能です。ただ、体力温存の為に故意に棄権した場合には、この限りではありません。

### 大会運営規程

#### 第4章 競技者及び試合

第22条 本会の第1種大会において、マッチ（試合）中、プレーヤーが明らかに真剣なプレーをしていない主審が判断した場合はすぐレフェリー（競技役員長）を呼ぶ。レフェリー（競技役員長）はその詳細を主審から聞き、その事実確認に基づき判断し、両サイドに警告を発する。その後、尚もそのような状態が続いた場合、主審は再びレフェリー（競技役員長）を呼び、レフェリー（競技役員長）は両サイドに最終警告を発し、しばらくそのコート付近で状況を注視する。それでも状況に変化が見られない場合には、速やかにその詳細を書面にて本会事業本部へ報告する。事業本部はそのプレーヤーについての処分を本理事会に具申する。尚、上記事項についてはレフェリー（競技役員長）が独自に判断することもできる。